

平成28年度 第4回「ともに考えよう まちづくりミーティング」

平成28年10月29日（土）18時30分～

金沢市立金沢海みらい図書館 1階 交流ホール

二塚、安原、金石町、大野町（校下、地区）

(1) 市長あいさつ

【山野金沢市長】

皆さん、こんばんは。

土曜日の夕方、大変寒い日になりました。たくさんの方にお越しいただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。本日は二塚、安原、そして金石町、大野町の各校下、地区の皆さんにお集まりいただきました。

まずは、先週日曜日に行われた金沢マラソンについてお礼を申し上げたいと思います。地域の皆さんが、それぞれのお立場でボランティアや応援で盛り上げていただきました。おかげ様で大きなトラブルもなく終えることができました。心から感謝申し上げます。

二塚、安原地区は、二塚からしな、打木赤皮甘栗かぼちゃといった加賀野菜の有名な生産地でもあります。また、金石町、大野町は港町として古くから栄えてきた歴史のある地区でもあります。それぞれの地域の個性を大切にしながら、皆さん方が誇りを持ってその地域の中で生活し、子供たちを大切に守り育ててきた地域だと思っています。

今日は、事前にいただきました、いろんなご提案がございます。そのことについてお答えさせていただきながら、また自由に手を挙げてご発言をいただければと思っていますし、時間に余裕があるようでしたら、これも自由に手を挙げていただいて、さまざまなご意見をおっしゃっていただければと思っています。

いただいたご意見で、お答えできるものはこの場ですぐお答えさせていただきますし、ちょっと宿題として持って帰らなければいけない、調べなくちゃいけないものがあるかもしれないかもしれません。その際は一旦持ち帰りまして、後日文書にして町会連合会の会長さんに責任を持ってお答えさせていただければと思っています。限りある時間ではありますが、実りある会になりますことをよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

(2) 地域代表あいさつ

【安原地区町会連合会 会長 西川 昇氏】

皆さん、こんばんは。

今日参加された4地域を代表しまして、一言ご挨拶を申し上げます。このまちづくりミーティングは、年に4回実施されて、1回に参加するのは4地域でございます。約4年に1回回ってくるということでございます。今日出席された主催の金沢市からは、山野市長初め、関連する局長の方々、本当にありがとうございます。そして、参加する4地域から町会連合会の会長初め、地域の住民の方、多くの方々が出席していただきました。本当にうれしく喜んでいる次第でございます。

先ほども山野市長から話がありましたとおり、金沢マラソン、成功裏に終わったということで、本当にご苦労さまでした。このまちづくりミーティングは、主催する金沢市と地域とが、それぞれの地域の特筆する資産、つまり人、物、建物、自然等を生かしてのまちづくり事業を目指すものであります。このまちづくり事業は、個性的で、長期展望を見据えた、継続性のあるものでなければなりません。中には一朝一夕に実現できないものもあると思いますが、それを克服して、実現に向けて、市と地域が知恵を絞って、相互に信頼と努力をもってしなければ解決しないと思っているわけでございます。今日のこのまちづくりミーティングが、忌憚のないご意見等を交わしていただき、実りの多い意見交換になればということを考えています。

最後になりましたが、今日お集まりの多くの方々のますますのご活躍、ご健勝をご祈念申し上げます、開催の挨拶といたします。今日はよろしく申し上げます。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、討議

①防災拠点施設の設置について（二塚）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

②安原地区の特性を生かしたまちづくりについて（安原）

③緑住宅団地の再整備計画を生かしたまちづくりについて（安原）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【安原地区町会連合会】

今度、低層の建て替えをやっていただくとお聞きして、今年初めから作業してもらっているんですが、今現在、町会そのものが高齢化によって崩壊しかけています。今後、建て替えていく上で、町会の編成もしないといけないと思っています。それでお願いなんです。去年の暮れ頃に、A1とA6を壊しますということをいきなり聞きました。その後、5階建てを壊しますということを今年になって聞いています。情報が入らないので、自治会としてついていけない立場になっています。今現在、町会長とも話し合っているんですが、情報が遅いので、町会の立て直し、町会の運営、それから町会の役員の確保、非常に難しくなっています。やはり長期的にビジョンを考えていただいて、こういう計画は前もって自治会と協議していただきたいと思っています。もう自治会が崩壊しかけていますので、本当に困っています。

それと、今度作っていただくことについてお願いがあるんですが、昔は若い人たちが多くて活気のある団地だったそうです。私は引っ越して来たのでわかりませんが、昔の連合町会長さん達から、とにかくスポーツ、それから婦人活動等があって、一つの町を形成したとお聞きしています。ところが、今は町全体が死んだようになっています。周辺の商店が全部閉鎖しています。年寄りが買い物に行けなくなっているの、小さな車で販売等しようかと名乗り出ていただいた方をお願いして販売を手伝ってもらっているんですが、それに対しても、車の中へ入れるな等、市からの苦情が来ています。

そしたら、年寄りには1キロ弱くらい歩かないといけないことになります。ところが、車で玄関先まで来てくれたら、階段を下りるだけで買えます。冬になると特に便利です。そういうことに協力してくれる人がいるわけです。しかし、団地の中に入るなど市から指示を受けました。これは高齢者のことを考えての話なのか、市の都合なのかはつきりしませんが、私どもは憤慨しています。年寄りの多いことを考えていただいたら、こういう販売でも、市は積極的に協力していただきたいと思っています。将来的にはまた活気のある団地にしていきたいというのが希望です。よろしくお願いします。

【野口都市整備局長】

先ほどの建て替えの情報が非常に遅いという話、本当に申しわけございません。その棟ごとに町会が形成されている中で、そこが一時的に転居していただいて取り壊しになるということですから、建て替えによるコミュニティの維持、町会の維持というのが一つのネ

ックになっていることも存じ上げていますので、今後、早目に私どもみどり団地の町会連合会とご相談させていただいて、あるいは市のスケジュールをなるべく早い段階でお伝えして、対策をともに考えていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

それから、今ほど移動販売のお話で、周辺の商業施設が閉鎖されている中で、買い物難民といいますが、買い物が非常に困難になっている状況も理解しています。みどりの住宅の中で、移動販売される方について市から入るなど言ったつもりはなくて、ただ、地域の状況の中ではいろいろ工夫しながら、団地の中でも駐車場がいいのか、道路でも非常に交通量の少ないところがいいのか等を考えながらも、移動販売をやっていただくということで、その様子を私どもで確認させていただきたいと思っています。決して団地の中だからそれを入るなど言うつもりもありませんし、言っていないとご理解ください。よろしく願いいたします。

【山野金沢市長】

建て替えの連絡が遅かったことにつきましては、今、局長からもお詫びがありましたが、私からも改めてお詫びを申し上げますし、二度とそういうことのないように、二度とそういう不満が起きることがないように、私からも責任を持って対応させます。本当に申しわけございませんでした。

【安原地区町会連合会】

今ほどのみどり団地の意見交換会は9月末に実施いたしました。これは準備段階でどうして進めたら良いかということでご提案させていただきまして、ようやく市営住宅課から、こうすればいいんじゃないかと。市の案もいい案ですので、その時には局長さんも来てもらわないといけない。判断する人が来ないと、私らは誰に話していいか、それすらわからない。できれば四半期に一回は開催して、交流あるいは意見交換をしていただきたいということです。

④地域の高齢化による交通手段の確保や空き家対策、コミュニティの維持について (金石町)

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【金石町校下町会連合会】

今日の課題の中で、コミュニティバスの問題について発言をしたいと思います。現状は、私の近くで見ても、スーパーあるいは病院になかなか行きにくい、という人がたくさんいます。少ない年金生活の中でスーパーへわざわざタクシーで行く人もたくさんいまして、どうしても地域でのコミュニティバスが必要な時代になっていると思います。今、中心部にコミュニティバスがありますが、その地域版みたいなものができればいいんじゃないかなと思います。小さいバスでいいので、幾つか路線を作ったらいいと思うんですが、まず、アンケート調査でも何でもしながら、地域の皆さんの要望、どういう路線がいいのかを聞くところから始めたらいいと思います。皆さんご存じかもしれませんが、岐阜市で19路線のコミュニティバスがありまして、実は私、たまたまそこへ行く機会がありました。それで、あそこはものすごい細かく路線があって、右回り、左回りかな、そういうのもあるんです。たとえば整形外科に寄るとか、スーパーや鍼灸院に寄るとか、路線からいうと非常に遠回りなんですけど、別に急いで行く必要はないので、便利だということです。それで、バスの乗客に聞いたら、非常に便利になりましたと。今まで行きたくても行けなくて出不精になっていたけれども、これができたおかげでスッと出ていけるようになって元気になりました、というお年寄りの声が実際聞かれました。料金も100円と安いんです。中には、買い物には行かないけれども、家にいても退屈だから乗っているだけだ、という人もたまにいらっしゃいました。その横の人同士でお話をする目的で乗っている人も実際にいらっしゃいました。そういうコミュニティバスができたらいいなと。ただ、一朝一夕にはできないので、まずアンケート調査でもしながら、住民の声を聞くところからすればいいのではないかなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それと、ごめんなさい。1つだけ。課題にないんですが、防災の問題で思っているのは、今、地震があちこちで、鳥取にもありましたし、本当に大変な状況ですが、金石で気がつくのは、我が家で防災無線が聞き取れないんです。何かしゃべっているのは聞こえるんですが、きっちり聞き取れないので、この辺の防災無線を家の中にも聞こえるような整備も必要なのかなと思います。一方で、無線スピーカーが近い家は、災害が来るといつもうるさい、という問題もあるので難しい一面もあるとは思いますが、いざ何かあった時に、訓練をしているのとしていないのとでは相当違うと思うので、年に一回ぐらいは避難訓練もいいのではないかと思います。

【平嶋都市政策局長】

まず、まちなかに走っているコミュニティバスのことをご指摘いただいたと思います。本市の場合は、「ふらっとバス」という名称で市民の皆さんになじんでいただいています。このふらっとバスは、いわゆる旧市街地、市中心部において、従前走っていたバス路線が廃線となったところを基本に運行しているというのが、コミュニティバスの制度的な枠組みとしてあることをご理解いただければと思います。

ただ、そうはいつでも、郊外部においても足の確保というのは、先ほど申しましたように大事ということで、市としましては郊外地域の皆様方の足の確保という意味で、住民の方々による自主運行のバス等への支援制度で当面对応していきたいと考えていまして、先ほど、アドバイザー制度も含めて市として積極的に関わっていきたくてご説明を申し上げました。現在、他の地域で申しますと、大浦地区と内川地区で住民の皆様による運行がなされていまして、そちらに対して、市として経済的支援あるいは技術的なものも含めて助言をさせていただいているところをごさいます、利用人数もさまざまありますので、バスというよりは、たとえばタクシーやジャンボタクシー、またはマイクロバスなど、機種もそれぞれニーズに合わせて運行するという工夫もしていただきながら、住民の皆さんの足の確保をしている状況でございます。よろしく願いいたします。

【中川危機管理監】

ただいまの防災無線が非常に聞き取りにくい時があるというお話でございます。金沢市内に同報の防災無線が200カ所以上設置してありますが、場合によっては天候の状況、風向き等によって聞き取りにくい場合もございます。

そういった方のために、その防災無線で話した内容を確認する電話番号がございまして、0180-99-7171、こちらにかけていただければ、無線の内容を再度確認することができます。一部、山間地等で聞き取りにくい時には電光表示で設置させていただいている場所もございます。平野部においては、今のところそこまでの対応はしていませんが、先ほど言いました電話番号にかけていただければ確認できますので、ぜひご利用いただければと思います。それと、防災訓練、非常に大切だと。おっしゃるとおりだと思います。金沢市内62の校下地区において、それぞれ自主防災組織というものを立ち上げていただいています。先ほど冒頭でお話ありましたが、二塚地区や安原地区も最近特に頑張らせていただいています。金石もそうですが、各地区で防災訓練を行っていただいています。

備えあれば憂いなしということで、まずは防災訓練を通して、地域でのコミュニティの醸成にも役に立つと思います。金沢市としてもできることは協力させていただきますので、ぜひ取り組んでいただければと思います。

【大野町地区町会連合会】

コミュニティバスの件です。前回のまちづくりミーティングで、大野の地区からもバス路線について考えてくださいとお話をしました。その時にいただいた答えは、事業者が民間なので、市が直接踏み込んでやることは難しい。ただ、事例として山間部で自主運営をしているところがあるので、テスト的にやったらどうか、そういうことは考えられますというご回答をいただいたような記憶があります。

今回、この件について金石地区の方、とても踏み込んでお話をさせていただいてありがたいなと思っています。何を言いたいかというと、金石地区だけではなくて、その路線にはぜひ大野も含めてほしいです。もう一つ、地域コミュニティを維持するためだけ、高齢化のために必要だという側面のお話でしたが、私からはそれに加えて観光もあり得ますよと。マイナス面だけではなくて、金沢市としてのプラス面も考えてみてくださいということをつけ加えたいのと、前回のまちづくりミーティングでは、たとえば1年間だけトライアルでやる方向もあるので、その場合は民間でお金を集めてちょうだい、ということでした。そういう意味では、大野地区の私は代表ではないので言えませんが、あんまり大きいお金はありません。小銭はポケットにありますので、小銭なら出せます。ですから、それを何人か賛同する方、大野の地区にはたくさんいらっしゃると思いますので、大野・金石あげてトライアルができれば、そこまでできたらいいなという希望を述べるものです。

【平嶋都市政策局長】

どうもありがとうございます。

特に金石だけではありませんで、金石・大野として一体でそれも踏まえて、今後具体的に検討されるのであれば、市としても技術的なアドバイスをさせていただきたいと思います。自主運行といいましても、一つ一つ積んでは崩し、をしながら、いいものにしていく必要がございますし、そのために今ほどちょっとお触れになりましたが、実験的なことも大事なかなと思ってまして、それについても市として費用の一部を助成することもしていますので、ぜひまたご相談をいただければと思います。

⑤金沢港を中心とした大野町のにぎわい創造と活性化について

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【大野町町会連合会】

少しつけ加えますと、ずっと大野町は古いものを残して活かすということで進めてまいりました。こまちなみ条例の指定を受けたのも、本当に早かったと思っています。日吉神社の祭礼はもちろんです、町を何とかしようということで、平成元年から、最初はいろんな、最近「こまちなみな一と」というような、28年間イベントをして、いろんな外部の人も来ていただけるように広がっています。世代交代も相当しながら進めているという現状です。

そんな中で、たとえば陶芸の方が何人か来たり、海外との文化交流をしたりして、世界に羽ばたいている方もいると聞いています。それから、今年の1月には大野町に工房を開いている方の4人展も、銀座の金沢で開かれています。だから、そういう発酵文化、醤油づくりの体験と同時に、陶芸であったり、ガラス工房であったりの体験もできる場所だと理解しています。もう一つは、県外出身の作家の方も含めて、いろんな人が町に入りつつある。完全に入ったわけではありませんが、お祭りがいいと言って大野に住んでいる人もいるぐらいです。だから今、新幹線ができて金沢はそれなりにやっていますが、金沢へのリピーターはやっぱり大野町へ来ていただける。大野町がグラビアのトップになる必要はないんですが、何回か来ていただく時にはいろんな体験ができて、昔の風情とか、いろいろ楽しめるものがあると思っています。

それから、たとえば外国人が2020年には4,000万人になるという。4,000万人が金沢に来るわけでもありませんが、外国人も来るし、今日「ばしふいっくびいなす」が入りました。しかし、クルーズ船がすぐ隣には来ている、町にはそんなに観光客が入っているわけでもありません。ですから、今の返答は何となく教科書的です。言いたいのは、自分たちで自助努力はもちろんしていきます。でも、お金を出してくれという意味だけでなく、行政の応援があるんじゃないかと。私らの先輩から積み重ねてきたまちづくりが土壌になって、十分そういったことに耐え得る町ではないかと。正直言って、ここに生まれ育った自分はそんなによくわかっていませんが、いろんなところの人が大野に来ていただけるということはそういうところもあると確信しています。だから、金沢市ももう一歩

前進して、市としてはこんなことは応援できると。相談とか検討を推進していくのでできると。地元としてはこういうことをできないか、ということをお願いできないかというのが希望です。

【大野町町会連合会】

市長もこの間、イタリア方面へ行っていらっしゃったみたいですが、私も先日、イタリアのトリノに行ってきました。なぜ行ったかという、向こうでスローフードというイタリア全土あるいはヨーロッパから古い食物の種を、固有種の京野菜があったり、加賀野菜もあります、その固有種を集めて保存する運動をしているのがスローフード協会だったり、スローフード大学というのがあって、食物の歴史とか、その使い方について生徒を全世界から集めて教えるという授業をやっている。何を言いたいかという、金沢は世界の交流拠点都市を目指すと言ってるわけですね。新聞の発表では、市は工芸をイタリアとやるとおっしゃっています。同じように金沢の大きな魅力として食があるわけですから、食の交流事業を考えてほしいということです。

ただ、残念なのは、工芸の場合は金沢市の21世紀美術館というハードがあるわけですね。私どもはお願いしていませんが、実際には、食についての目に見えるものをハード的にやろうとは思ってないわけです。何をしたいかという、ライブミュージアム。今のミュージアムは決して建物のあることがミュージアムではなくて、活動そのものがミュージアムですね。スローフード運動あるいはその展示会は、まさにライブミュージアムそのものであるわけです。それを真似するというか、そのエッセンスというか。ハード的に見たら、別にイタリアに行かなくても、金沢市でもやっているし、県でも既にやっているんですよ。だから、真似る必要はなくて、要はそれをライブミュージアムとして金沢市として歴史のある「オールドタウン」とここに書いてありますが、そこを拠点として位置付けて、どのように近江町なり、お城なり、東山と絡んでくるのかを書いてちょうだいよと言っている、単純なことですね。逆にそれを部局に分けて細切れにされると、言っている意味がまた変わってくるわけですね。ぜひ、国際交流拠点を目指すというのであれば、工芸だけではなくて、食もやってほしいと。

既に料理屋さんの組合があつて、あれは芽生会という会でしょうか。そこはニューヨークの三つ星のレストランに和食の職人を3~4人ほど派遣して、1週間ほど研修をして、今度は逆にニューヨークのシェフ達を金沢に呼んで来て、いわゆる短期留学ですね。それ

が実際の交流になって、それをしゃべっていただくと、有力者がまた金沢に来るということを繰り返して、始めたばかり。これは2年目になると思います。大野地区も醤油を、わざわざニューヨークから来て、ああ醤油ってこういうものかという交流をやっています。

同じことを、県と市と手を取り合ってやってほしいと申し上げているので、決してやっていないとは言わないです。ここに具体的な計画が示されていないのは、どこの部局がさわっていいかわからないという状態ですので、ぜひこれを市として進めてほしい。それを旗印に掲げていただいたら、大野はそれに沿った形で自主的にやりますし、手を取り合っていくところはそうしたいということで。お金ちょうだいと言っているわけじゃないんですね。そういうエンドースメントというか、承認をした上で旗振りをしてくださいということをお願いしているわけです。

【山野金沢市長】

先ほど「銀座の金沢」の話が出ました。この話はいろんなところでよく言っています。工芸が金沢の町家の特徴であることは皆さんもご理解いただけると思いますが、工芸に厚み、深みを持たせるのは食だと思っています。同じお酒を飲む時にも、紙コップで飲むお酒と、それなりの器で飲むお酒と、場合によってはガラスで飲むお酒、ワインもそうかもしれないですけど、やっぱり変わってくる。食べ物もそうだと思います。

銀座の金沢も、僕らは「銀座の金沢」と言っていますが、これは「dining gallery 銀座の金沢」という名称で、工芸と食の部門を設けています。僕はまさにそこは密接不可分なものだと思っています。先ほど芽生会のお話をされました。芽生会も市がお金を、全部ではありませんが、市が新しい、若い料理人に刺激を受けてもらって、さらに従来の日本料理だけではなくて、洋の視点から、また新しいジャンルの料理に入ってほしいという思いも込めて、市でも財政的なバックアップをしながら行っているところでもあります。ただ、今おっしゃっていただいたように、始まったばかりの事業でもありますので、まだそれが形になって、多くの市民の皆さんに目に見えていないかもしれませんが、もっとしっかりとやっていかなくちゃいけないということも改めて感じさせていただきました。

僕は、大野町へ何度も足を運んでいます。お話ありましたように、工芸作家さんも出ていますし、発酵食品、特に醤油の町でもありますし、極めて先進的に大野醤油のラーメン屋さんをしたり、自助努力されているのを、僕はよく理解をしているところでもありますし、何人ものリーダーになる方たちが、引っ張っていつている地域ということもよく理解

をしているところでもあります。今、改めて、発酵もそうかもしれませんが、工芸と食の部分をもっとクローズアップすることによって、金沢にこだわった金沢らしさという意味での食にも力を入れていくことを、より明確な形で伝わる発信の仕方も工夫していきながら取り組んでいきたいと思えます。具体的にまた相談に乗っていただければと思えます。しっかりやっていきます。

(4) 共通課題についての討議

防災施設の充実について（二塚、金石町）

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

(5) 質疑応答

【大野町町会連合会】

アイデアとかではないんですが、防災に関して、私自身が高齢者の方とか、お母さん方と話しをする中で、やはりいろんな災害や防災に関しては心配、また関心が高いということを感じています。ただ、具体的にどうなのか話が深まらないことを実感しているところです。先日、新聞記事に、「集中豪雨時の防災地図作成」という津幡町の取り組みで、「能瀬地区で町会とか地域、集落ごとの防災地図作成を支援する制度を設けている」ということで、能瀬地区が第1号で作成したという記事を見ました。金沢市でもいろんな取り組みをされていますが、大きい地図になるとなかなか実感がなく、町会単位で防災地図を自分たちで作ることができたら非常におもしろいなということを思ったんです。まだ勉強不足で、町会としていろいろ話題にできればいいなという、もやもやと思ったレベルなんですが、いい機会だったので、金沢市にもこういった支援制度、地域や集落ごとの防災地図作成を支援する制度があるのかをお聞きしたい。

もう一つ、毎年、大野町町会連合会としても防災訓練をしています。特別に問題があるわけではないんですが、例年同じようなパターンになっていて、その中で、知っているという形で参加される方と参加されない方が、正直決まってきた感があります。そういう意味では、現状の取り組み内容で問題がないにしても、さまざまな災害がありますので、現状の取り組みを、専門家からの視点での評価やアドバイスをいただくといったことに、金沢市から何か協力を得られるのか。講座とかになると、また敷居が高くなって、距離が

離れてしまうので、現状の取り組み内容に対してのダメ出しというか、こうしたらもっと良くなるねとか、身近に話しができる機会があれば、お聞きできたらと思いました。

【中川危機管理監】

まず、防災地図の作成でございますが、金沢市全体の防災マップも作成されていまして、これも金沢市のホームページに掲載されています。それとは別に、62の各校下、地区が作成した防災マップもございます。金沢市とすれば、地域のことはやっぱり地域の皆さんが一番よくわかっていらっしゃるので、各地域での防災マップ作りについても積極的に取り組んでいただきたいことをお願いしていますし、そういった地図の作成、印刷等についての財政的な支援もさせていただいています。そして、防災訓練のマンネリ化にも関連してくるんですが、危機管理課の職員が防災出前講座として各地域に出向いて、全国的な動きであるとか、その他の地区でのいろんな活動等もご紹介させていただいているという状況でございます。また、最近取り組んでいるのは、コミュニティ防災士という制度がございます。現在、金沢市内に約400名の地域コミュニティ防災士の方がいらっしゃいまして、各自主防災会から推薦された方に講義を受けていただいて、防災士の資格を取っていただくということでございます。

地域の防災士の方も専門的な知識、経験を持っていらっしゃるので、地域の中でも防災訓練やいろんな活動、そんな時にぜひとも一緒になって考えていただきたいということでございます。いずれにしても、危機管理課を通じまして、いろんなご相談に乗らせていただきたいと思っていますので、また電話なり、直接窓口に来ていただいても構いませんので、お話しいただければと思います。

【安原地区町会連合会】

地域の防災マップですが、安原地区は町単位で防災マップを作って一軒一軒配布してあるんです。町中のブロック塀等を町会の人らで調べて作り上げました。マップは折り曲がらないように、パウチしてナイロンで固くしてあります。英語、韓国語、日本語版を作成しました。点字はなぜしないかということで、視覚障害者のところに行ったわけです。そしたら、目の見えない人すべてが点字を読めるかといったら大間違い。小さい時から目が見えない人だけ。大人になってから事故や病気で目が見えなくなった、そんな人らは読めない。そんなのを載せてどうするんだと。それと視覚障害者の人に聞くと、みんなが集ま

る所へ私らを連れていってどうするの。目の見える人が行っても混雑して、トイレも行けない所になぜ避難を求めるの。災害で家が傾いても、自分の家にいるよと。そんな回答を得ながら、安原地区で防災マップを作りました。参考までに発言させていただきました。

【金石町校下町会連合会】

防災とコミュニティという問題点において、今やっぱりコミュニティには核となる人物がすごく必要なのかなと感じています。以前は中小企業の業者さん、それから各商店の方々が地域の中心となって活動されてきたと思うんですが、現在、中小企業が以前は日本に600万社存在していたのが、400万社以下に減少している。我々の地域も若手のそういった方が非常に減っているのが、まちづくりにおいて少し元気がなくなっているのかなと感じるところでございます。商店の方々、市役所の方々、学校の先生の方々、そういった方々がもっとその地域コミュニティに一致協力して、核となって推進をすると、またいろんな意味で違ってくるのかなと感じられますが、市としてどのようにお考えなのか、お話をお聞かせいただければと思います。

【山野金沢市長】

新年度に変わりまして、4月に入ってすぐに課長会議というのを行います。市役所の一番広い部屋で、今日来ている局長もそうですけれども、課長、部長、局長、全体が集まった会議があります。相当の数になりますから、会議といっても議論するというよりも、どちらかといえば確認が多いのですが、私はいつも毎年、市長になってから6年間毎年言っていることの一つは、ぜひ地域活動に積極的に関わってほしい。町会、公民館、小さいお子さんがいらっしゃる方、PTA、学童野球、少年サッカーの指導者、また自分が学生時代サッカーをしていた、野球をしていた、バドミントンをしていた、そういう人は地域のサークルに入ったり、またお世話役をしたり、ぜひさまざまな形で地域コミュニティ、地域活動に関わってほしいという話を毎年、課長会議でさせていただいています。

また、これも市長になって毎年やっていることですが、新たに主査級だとか、課長級に昇任された方、大体10名前後とお昼御飯を食べながら意見交換をしています。大体4月から始めて、いつも9月、10月頃までかかるんですが、そこでも必ず、地域活動に関わってほしいと言っています。ただ、地域活動に関わったら給料が上がるとか、出世ができるのかというのは、公務員ですからなかなかできませんけれども。職員の皆さんは温度差もあ

りますし、地域性もあるかもしれませんが、全員とは言いません。全員とは言いませんけれども、そんな思いで活動していると思いますし、今そういうご質問が出るということはまだまだ足りない、と市民の皆さんには見えるかと思しますので、改めて、僕はそんな強い思いを持っていますし、その強い思いを機会あるごとに職員の皆さんと共有していきたいと考えています。

【二塚地区町会連合会】

いろいろありがとうございます。二塚に住んでいて、実は専光寺のソフトボール場が大変立派な施設として全国に知れ渡っていますが、最近聞くところによると、球場としては公認規格外ということもお聞きしますので、市としてどうお考えなのか、お聞かせ願いたいと思います。

【詩丘文化スポーツ局長】

今お話がありましたとおり、専光寺のソフトボール場は、元々、規格に当てはまっていたんですが、ソフトボールのルール改正で少し規格が変わりました。その関係で、現在は本塁からフェンスまでの長さが約8メートル足りないという状況にあります。

ただ、これは男子の公式大会のみで、女子の公式大会には合致していますので大丈夫です。ジュニアも大丈夫です。男子も、実は先般開かれましたマスターズについては、それぞれの大会でフェンスまでの距離を決めていますので、実施することができました。そういった意味では、大きな大会でも、大会ごとに決めているものについては可能なものもありますので、現状でもほぼ使えます。しかし、本当に大きな大会になりますと、やはり規格外になりますので、これについては、またいろんなスポーツ施設、順次整備を計画していますので、その計画の中に組み込んでいかなきゃいけないと思っている次第です。

(6) 市長まとめ

【山野金沢市長】

本日は、ご多用のところ本当にありがとうございました。

ご存じの方も多かもしれませんが、私は金沢生まれ、金沢育ちで、大学から東京に行って、32歳まで東京の会社でサラリーマンをしていました。市会議員を10年ちょっとさせていただいて、今、市長になって6年目になります。そんな意味では、いろんな政治のこ

とも、民の立場であったり、議員の立場であったり、市長という立場で見ながら、いろいろと考えるんですが、今日皆さんお聞きになって、何か金沢市の答弁、冷たいなと感じた方がいらっしゃるかもしれません。かもしれませんが、市政は一朝一夕で動くわけではありません。

たとえば外環状の本線部分の有効活用ができないかということは、これは地域の皆さんはもちろん、市も県も国も、間違いなく同じ問題意識を持っています。ただ、今、いろいろな事業等がありますので、これこそ一朝一夕に動くわけではありません。ありませんけれども、私は恐らくほぼ全員が同じ問題意識を持っていると思いますので、少し時間はかかるかもしれませんが、利害関係を調整しなければいけないことはあるかもしれませんが、ここは必ず動いていくテーマだと思っています。

また、二塚地区の方から何点もご提案いただきました。これもやっぱり冷たいなと思われたかもしれませんが、具体的に避難場所の件についてもご提案いただきました。これもすごく大切なテーマであります。私も今、聞きながらしっかりと受けとめましたし、ご提案いただいた中で民間の施設もありますから、民間の皆さんのご理解をきちんといただかなければなりませんし、地域にとって、よりふさわしい場所があるのかもしれませんが、そういう具体的な動きにつながっていく、間違いなく第一歩になったと思っています。

今日、この話し合い自体は8時半で終わるのかもしれませんが、政策は間違いなく動き出したこともありますし、これから新たに、他の地区の意見を聞くことによって、自分たちの地区について改めて認識を高めることもあったかとも思っています。必ず今日の会は次のために意義のある会につながっていく会ですし、つなげていくのが私の立場でもありますので、そこはしっかりとお約束をさせていただければと思います。

なかなか意見を言えと言っても、たくさんの人の前で手を挙げて発言するのは勇気が要るかと思しますので、お手紙でも結構です。また私あてに、いつも言うんですけれども、自分のメールアドレスも、ブログも、フェイスブックも、ツイッターも完全オープンにしていますから、ぜひいろんな形でご意見もいただければと思いますし、皆さんが満足できる答えをすぐできるかどうかはともかくとして、返事は必ずします。返事は必ずしますので、ぜひいろんな形でご意見をいただければと思います。

本日は本当にありがとうございました。